

「図書館の利用とみえの子育てについて」アンケート実施報告

三重県立図書館
健康福祉部子ども・家庭局少子化対策課

三重県の図書館の利用状況や図書館に期待するサービスについて、また平成23年4月に施行された「三重県子ども条例」と今年度から取り組んでいる「みえの育児男子プロジェクト」について、e-モニターの皆さんにご参加いただき、アンケートを実施しましたので、その結果をお知らせします。

アンケートにご協力くださったe-モニターの皆さん、ありがとうございました。

【アンケート概要】

1 アンケート実施期間

平成26年8月7日から平成26年9月1日まで

2 意見募集の結果

対象者数 1180人

回答者数 830人（回答率70.3%）

3 回答者の属性

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	総計
男	28	64	105	117	114	22	450
女	49	103	94	82	41	11	380
総計	77	167	199	199	155	33	830

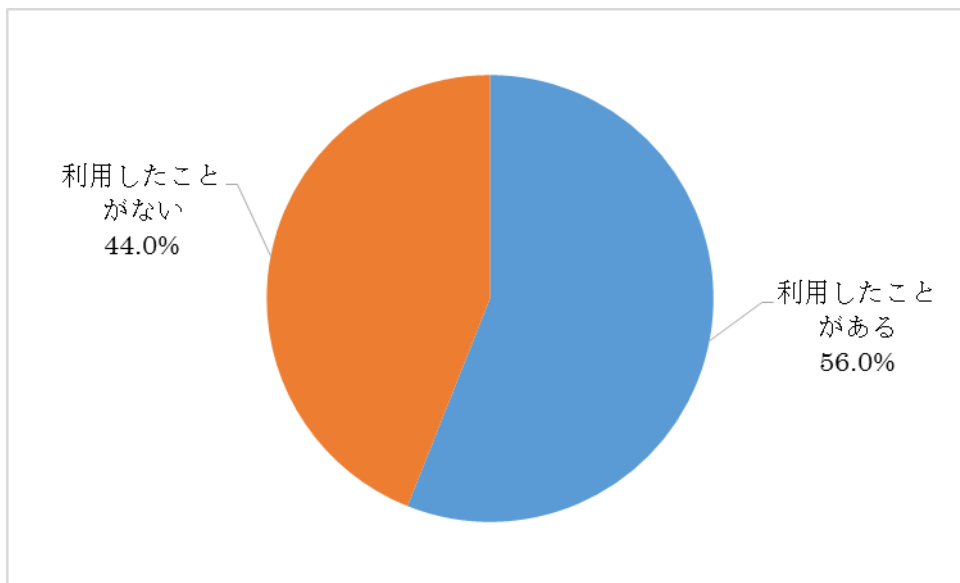
【アンケート結果】

Q 1 図書館の利用状況について（1）

あなたは、この1年以内に図書館（県立図書館、市町立図書館等）を利用したことがありますか？

図書館を「1年以内に利用したことがある」が56.0%、「1年以内に利用したことがない」が44.0%という回答となりました。

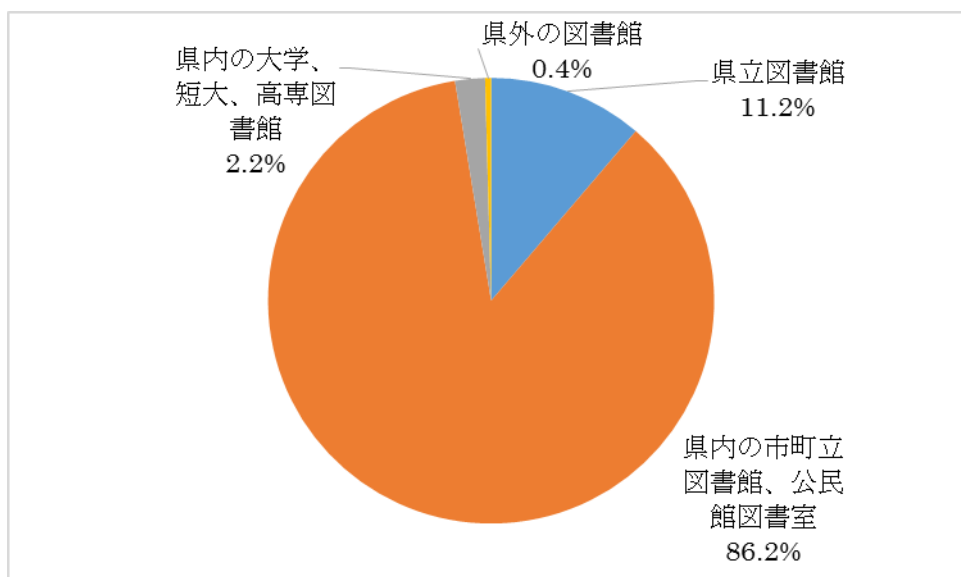
図書館を利用してもらうための取り組みが必要です。



Q 2 図書館の利用状況について（2）

Q 1で「利用したことがある」とお答えの方にお尋ねします。
あなたが一番利用した図書館を1つ選んでください。

利用した図書館について、県内の市町立図書館が最も多く86.2%となりました。県立図書館は11.2%となっています。



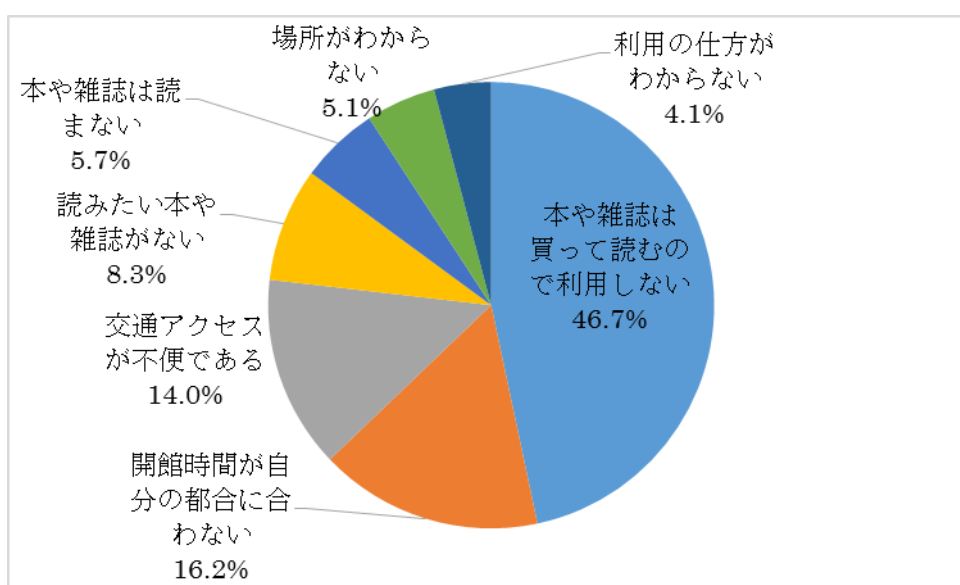
Q3 図書館の利用状況について（3）

Q1で「利用したことがない」とお答えの方にお尋ねします。
あなたが図書館を利用しない理由を1つ選んでください。

理由として、「本や雑誌は買って読むので利用しない」という回答が最も多く、46.7%となりました。

次いで「開館時間が自分の都合に合わない」が16.2%、「交通アクセスが不便である」が14.0%、「読みたい本や雑誌がない」が8.3%となりました。これらを踏まえ、多くの方に図書館を利用いただく取り組みが必要です。

「場所がわからない」「利用のしかたがわからない」という回答も合わせて9.2%となっており、図書館からの情報発信が必要だということがわかりました。



Q4 利用してみたい図書館像について

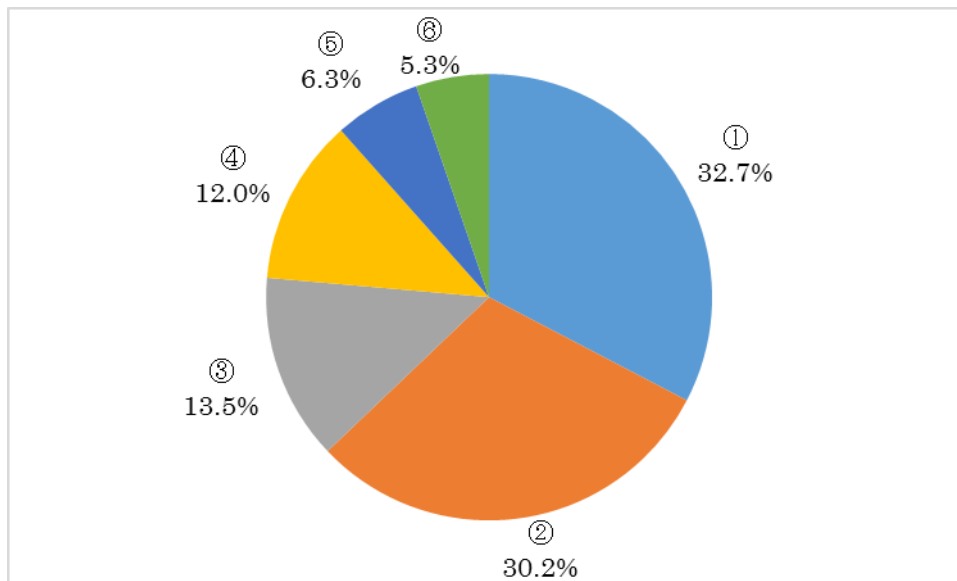
あなたが利用してみたいと思う図書館のイメージにもっとも近いものを1つ選んでください。

①「子どもから高齢者まで、年齢や性別を問わず誰もが気軽に集い、交流できる図書館（例：館内で飲食や談笑ができるスペースの提供）」の回答が32.7%で最も多くなりました。次いで、②「最新の情報サービスに対応した図書館（例：電子書籍の貸し出し、公衆無線LANや電源の利用）」が30.2%の回答となりました。

館内での飲食や交流、無線LANや電子書籍の利用などの要望が高いことがわかりました。これらのニーズを踏まえ、県内図書館と連携して取り組みを進めていきます。

他に、③「地域の歴史や文化の魅力を再発見することができる図書館（地域の古写真、祭りの動画などの提供、歴史講座の開催）」13.5%、④「暮らしに役立つ図書館（例：館内相談会への参加、パンフレット・チラシなどの入手）」12%、⑤「読書活動を生涯にわたって支援する図書館（例：読んだ本の感想を紹介しあう

イベントの開催、高齢者向けの大きな活字本の利用)」6.3%、⑥「経験・知識や学習の成果を発表し、刺激を受けることができる図書館（例：作品展示スペースの無料提供）」5.3%となりました。



Q5 これからの図書館に期待することについて（自由記述）

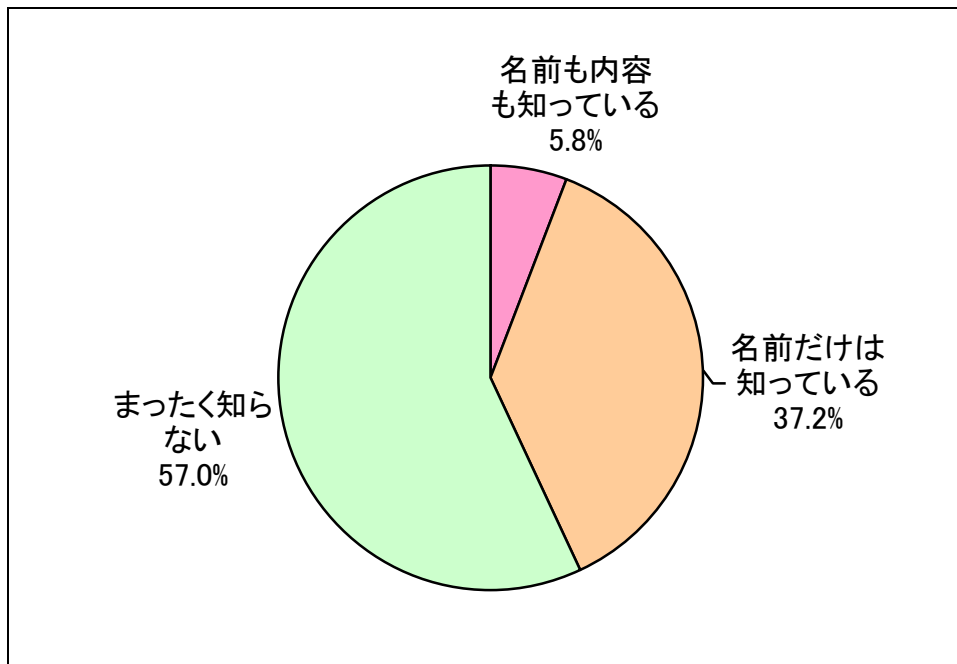
最も多かったものは「図書や雑誌を充実させてほしい」というものでした。他に、職員の親しみやすさ、子ども連れの方への配慮、飲食スペースの充実、開館時間の延長などの要望が多く寄せられました。

Q6 子ども条例について（1）

あなたは、「三重県子ども条例」のことを知っていますか？

条例について「名前も内容も知っている」が5.8%、「名前だけは知っている」が37.2%、計43.0%の方が、「知っている」と回答しました。

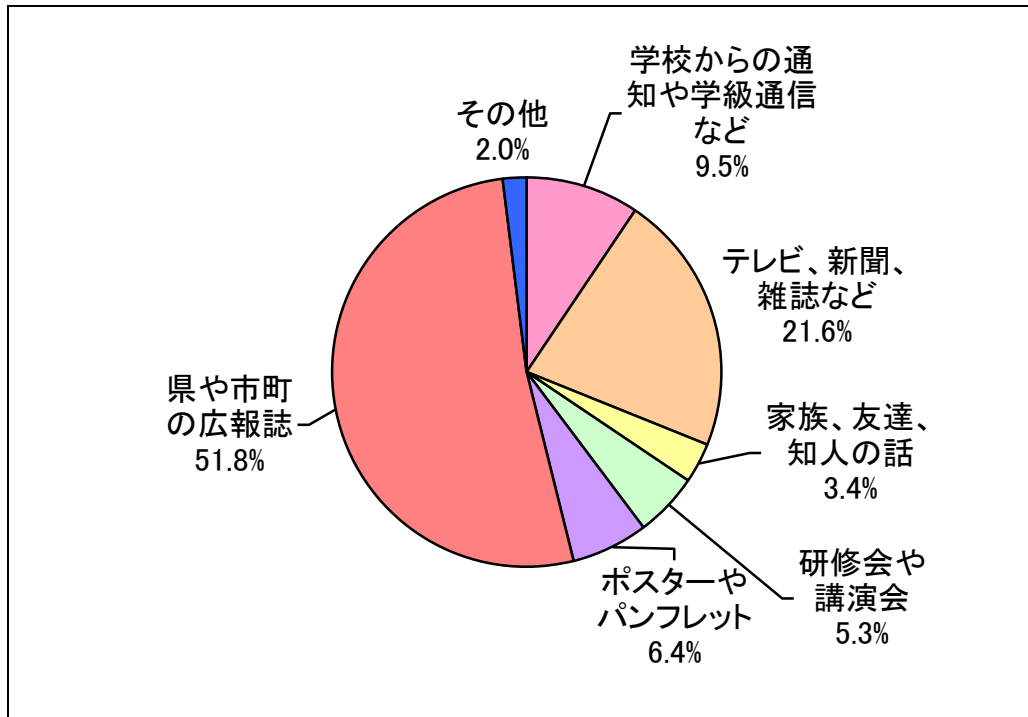
一方、「まったく知らない」が半数以上の57.0%で、認知度は前回からは微増しましたが、今後もひきつづき条例を皆さんに知ってもらう取り組みが必要です。



Q7 子ども条例について（2）

Q6で「名前も内容も知っている」「名前だけは知っている」と答えた人にお聞きします。あなたが子ども条例を知ったきっかけとなったものを1つ選んでください。

条例を知ったきっかけは、「県や市町の広報誌」が半数以上と最も多く、次に「テレビ、新聞、雑誌など」でした。



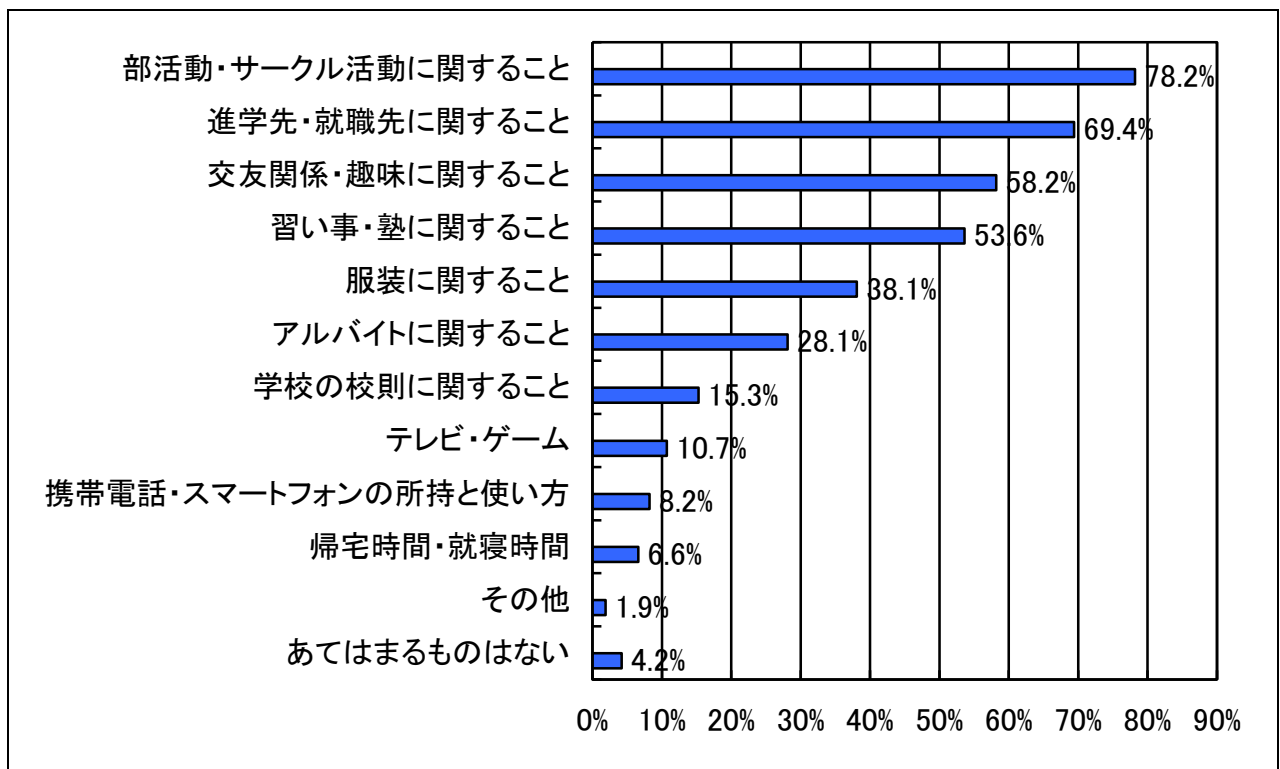
Q8 子どもの意見について

あなたが、子どもが自ら決めた方がいいと思うもの、子どもの意見を尊重するべきと思うものについて、あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答)

もっとも多かったのは、「部活動・サークル活動に関すること」(78.2%)で、次に「進学先・就職先に関すること」(69.4%)、「交友関係・趣味に関すること」(58.2%)でした。もっとも低かったのは、「帰宅時間・就寝時間に関すること」(6.6%)でした。

また、一方で、「あてはまるものはない」を選んだ方も4.2%であったほか、自由回答には、基本的に親子で相談するべきだ(親の意見は仰ぐべきだ)、子供時代は型を覚える時代なので、子どもを尊重しつつも自由にはさせない、などの意見がありました。

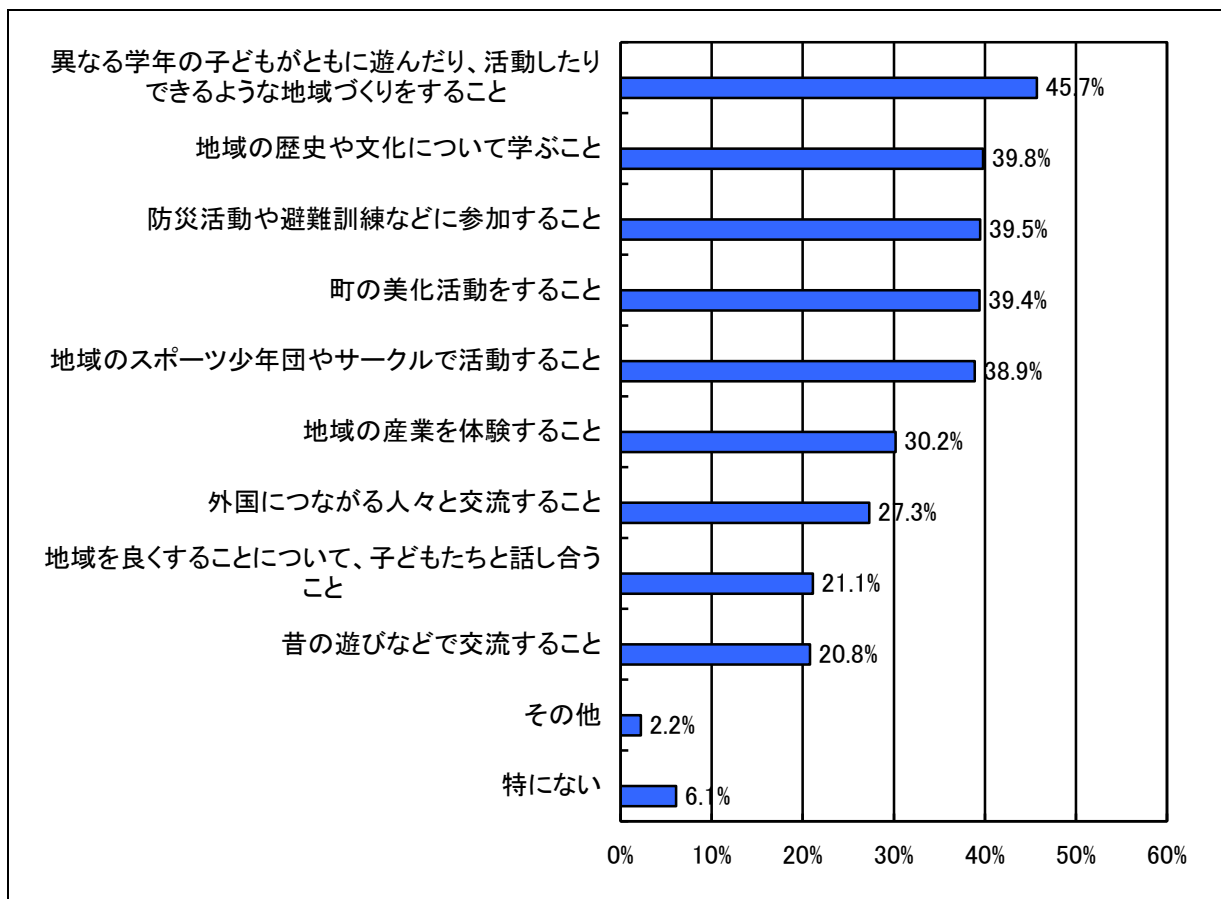
アンケートの結果、勉強や部活動などについては、意見を尊重する人が多い結果となりました。



Q9 子どもとともに取り組みたい行事について

子どもがいきいきと育つために、あなたが、地域の子どもと一緒に取り組みたいと思うことは、どんなことですか。あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答)

「異なる学年の子どもがともに遊んだり、活動したりできるような地域づくりをする」を選んだ人がもっとも多く、45.7%、次に、「地域の歴史や文化について学ぶ」「防災活動や避難訓練などに参加する」「町の美化活動をする」「地域のスポーツ少年団やサークルで活動する」が40%弱でほぼ同じ割合となっています。これらの傾向から、地域の子ども同士で交流しつつ、地域を良くすることに参加してほしい、と皆さんが考えていることがわかります。



Q10 子どもの成長の応援について

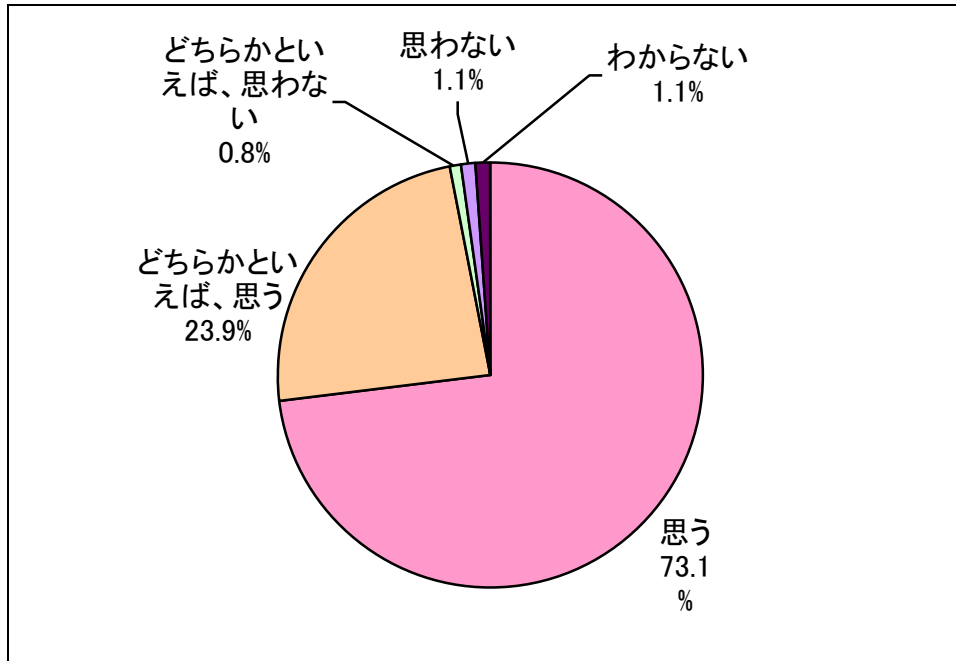
あなたは、子どもが

- ・安心して生きること
- ・虐待やいじめなどあらゆる暴力や差別から守られること
- ・自らの力を発揮して成長すること
- ・思いや意見が尊重されること

などができて、豊かに成長することを応援しようと思いますか。

子ども条例では「県民等の役割」として「子どもが豊かに育つことができる地域社会づくりに関心を持ち、理解を深めることによって、子どもの育ちを見守り、支えるよう努める」とされています。そこで、子どもの成長への応援意識をたずねました。

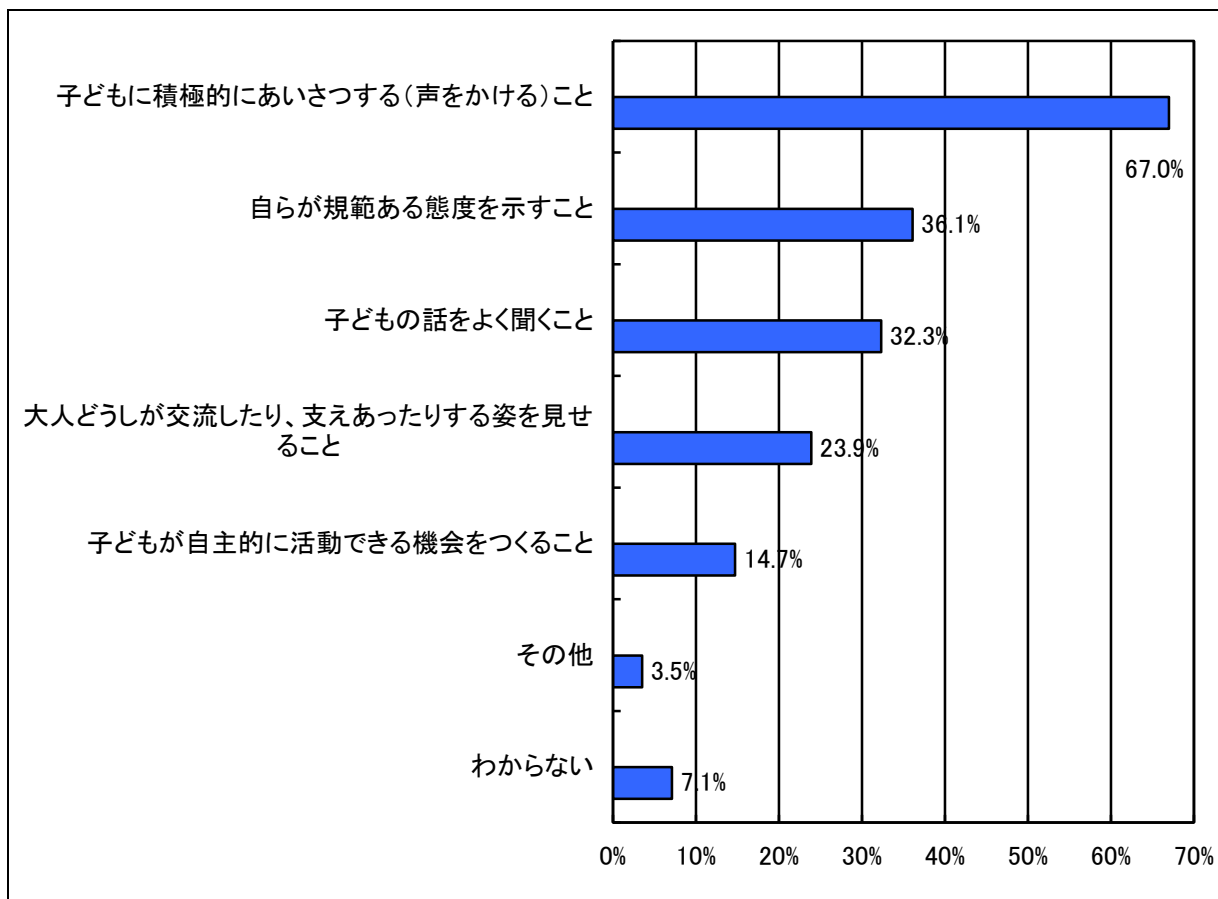
その結果、「思う」が73.1%、「どちらかといえば、思う」をあわせると、97%の方が応援すると回答しています。



Q 1 1 地域での子どもとの接し方について

あなたは、近所の子どもと接するとき、どのようなことを心がけていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

5つの選択肢のうち、もっとも簡単に実行できる「子どもに積極的にあいさつする（声をかける）」が最も多く（67.0%）、「自らが規範ある態度を示すこと」「子どもの話をよく聞くこと」が続きました。



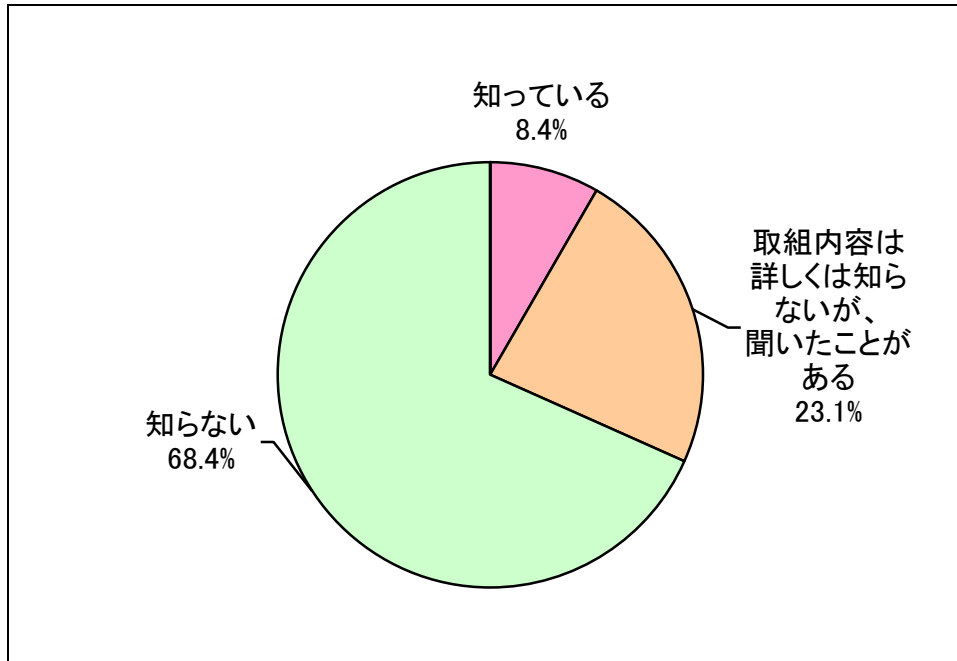
Q12 「みえの育児男子プロジェクト」について

あなたは、三重県が進める「みえの育児男子プロジェクト」についてご存じですか？

三重県では、今年度から、男性の育児参画を推進するため、親目線の家事・育児負担であるいわゆる「イクメン」だけでなく、子どもの成長を大切に考えて、その人なりの方法で積極的に育児を行う「育児男子」を応援する「みえの育児男子プロジェクト」に取り組んでいます。

そこで、プロジェクトの知名度をお聞きしたところ、「知っている」（8.4%）と「取組内容は詳しくは知らないが、聞いたことがある」（23.1%）をあわせて3割強という結果でした。

引き続き、ステキな育児を実践している男性等を表彰する「ファザー・オブ・ザ・イヤーinみえ」の取組をはじめ、さまざまな手段により男性の育児参画の普及啓発を図ることにより、県民の方への周知を強化してまいります。



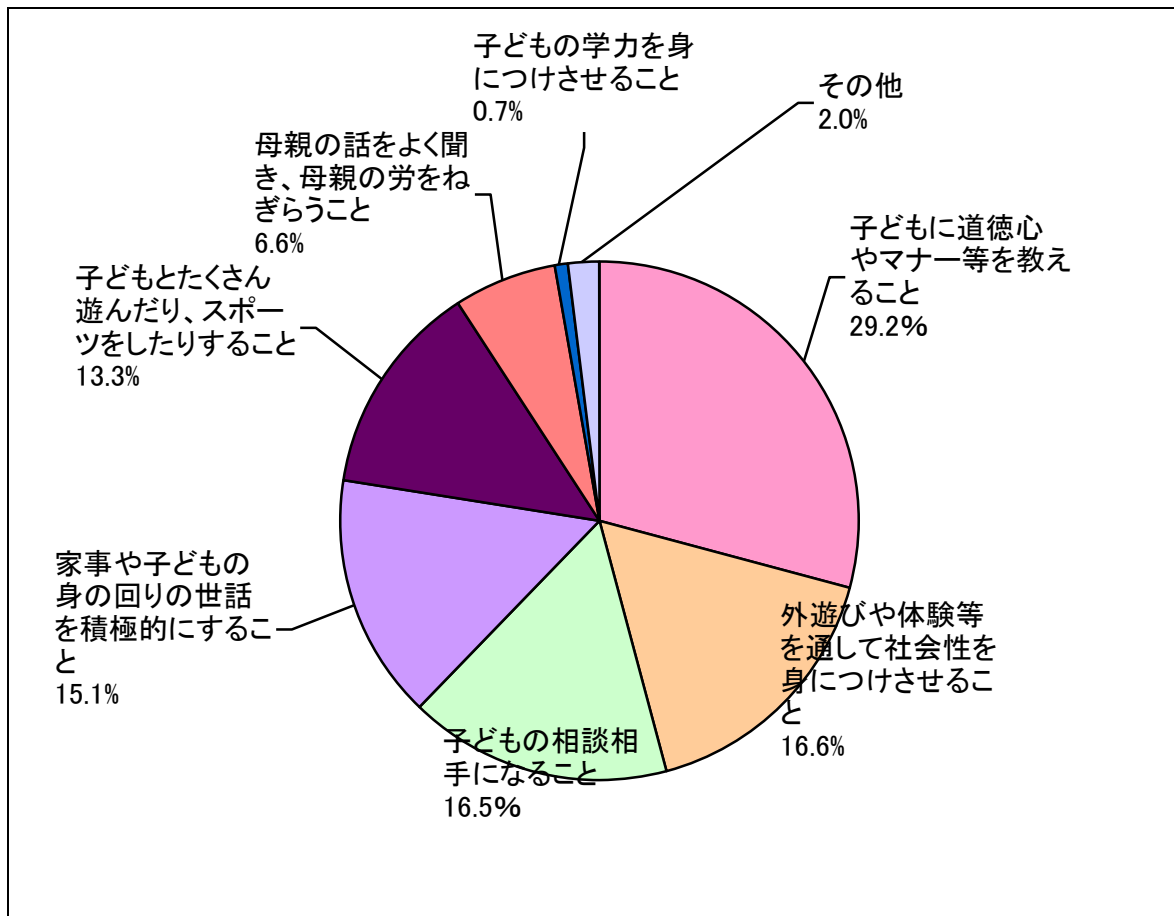
Q13 男性の育児参画について

子育てに関して、あなたが男性の役割として最も大切だと思うことはどんなことですか。

男性が育児に参画するにあたって、最も大切な役割を一つ選んでいただきました。最も多かったのは「子どもに道徳心やマナー等を教えること」(29.2%)でした。

続いて、「外遊びや体験等を通して社会性を身につけさせること」「子どもの相談相手になること(将来の進路、悩み等)」「家事や子どもの身の回りの世話を積極的にする」が多く選ばれました。

また、男女別に見た場合、男性の4割弱が「子どもに道徳心やマナー等を教えること」を選んでいるのに対し、女性では「家事や子どもの身の回りの世話を積極的にすること」「母親の話をよく聞き、ねぎらうこと」「子どもとたくさん遊んだり、スポーツをしたりすること」の占める割合が特に男性よりも高くなっています。



※上記アンケートの男女別内訳（男性の回答が多い順）

選択肢	男	女
子どもに道徳心やマナー等を教えること	36.9%	20.0%
外遊びや体験等を通して社会性を身につけさせること	16.4%	16.8%
子どもの相談相手になること(将来の進路、悩み等)	16.2%	16.8%
家事や子どもの身の回りの世話を積極的に行うこと	12.0%	18.7%
子どもとたくさん遊んだり、スポーツをしたりすること	10.2%	16.8%
母親の話をよく聞き、母親の労をねぎらうこと	4.7%	8.9%
子どもの学力を身につけさせること	1.1%	0.3%
その他	2.4%	1.6%
総計	100.0%	100.0%